

## 1. 事業の必要性・概要

平成20年のG8首脳会合では、2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を少なくとも半減するという長期目標が合意された。この目標の達成には、低炭素社会への変革を国際的に進める必要がある。各国における低炭素社会に向けた包括的なビジョンを確立するための検討基盤として国際的な研究機関の英知を集結する研究が求められ、平成21年4月のG8環境大臣会合において、我が国提案による低炭素社会国際研究ネットワーク（LCS-RNet）の発足が合意され、低炭素社会の構築に係る研究を実施している各国の研究機関と関連省庁によるネットワークが立ち上げられた。

他方、アジアはこのままでは2050年には世界の温室効果ガス排出量の半分を占めるとの予測もあり、低炭素社会への投資に切り替えることが喫緊の課題となっている。このため、ASEAN+3環境大臣会合での我が国提案に基づき、LCS-RNetで培った研究ネットワーク活動の経験をアジア地域に適用すべく、平成24年4月に低炭素アジア研究ネットワーク（LoCARNet）が設立された。

## 2. 事業計画（業務内容）

引き続きLCS-RNetによる先進国間の取組を進めるとともに、LoCARNetの下、アジアでの研究ネットワーク活動の本格的な展開に注力することとしており、この成果を、ASEAN+3環境大臣会合、東アジア首脳会議（EAS）及び東アジア低炭素成長パートナーシップ対話等に報告していくこととしている。また、アジアにおける共同研究の促進を図る。

### ① 我が国の低炭素社会研究の成果取りまとめと情報発信

低炭素社会研究で先進的な地位にある我が国の研究の最新動向を調査・取りまとめ、ネットワーク参加各国との情報共有や、広く世界に向けた情報発信を推進する。

### ② 国際的な低炭素社会研究をリードする計画作成・実施

国際的な低炭素社会研究の最新動向を調査・把握し、今後取り組むべき課題の特定や、具体的な共同研究や活動の計画を作成・実施する。

### ③ 国際的な連携の推進

各種の研究者会合や、研究者と企業・市民団体等の利害関係者との対話（ステークホルダー対話）を開催することにより、研究者間の連携の推進及び対外的な情報発信を行う。

### ④ アジアにおける連携の強化

LoCARNetを通じ、アジアにおいて、ワークショップや政策対話を実施することにより活動を強化する。

## 3. 施策の効果

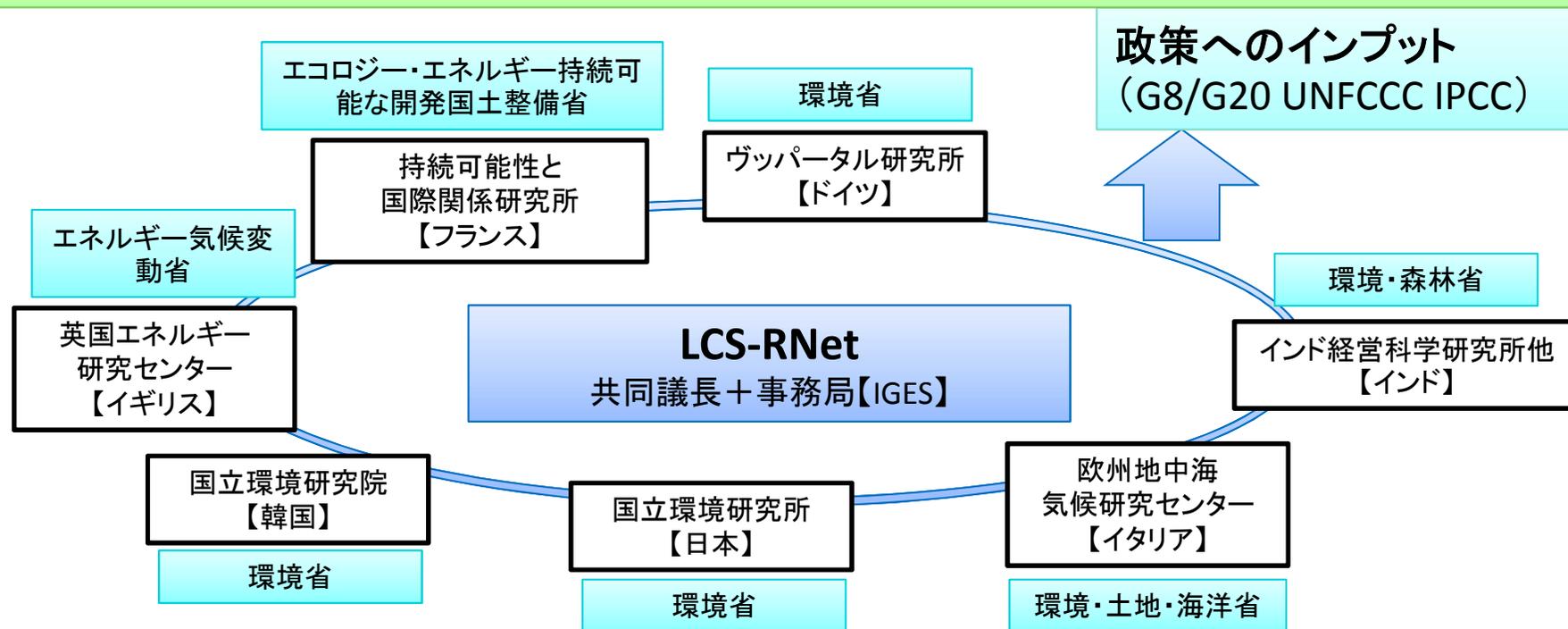
LCS-RNetでは、これまで、各種の会合やシンポジウムを開催し、参加機関の相互協力の基盤を築き、参加機関の増加に努めてきた。また、会合の成果を報告書にまとめ、気候変動枠組条約締約国会議のサイドイベントで発表する等、研究者や政策決定者に対して質の高い成果の提供を行ってきた。

LCS-RNetの枠組みでこれまで実施してきた取組はG8環境大臣会合へ報告され、また、気候変動国際交渉プロセスに適宜紹介・利用されているほか、LoCARNetの成果はASEAN+3環境大臣会合やEAS環境大臣会合へ報告される予定。これにより世界・アジア各国における低炭素成長政策の実現が期待される。

# 低炭素社会国際研究ネットワーク事業

87百万円（89百万円）

- 低炭素社会の実現に向けた研究を促進するための研究機関で構成されるネットワーク
- 平成20年5月のG8 環境大臣会合（神戸）で、ネットワーク設立を各国が支持
- 平成21年4月のG8環境大臣会合（シラクサ）にて、発足が了承された
- 第1回年次会合：平成21年9月於ボローニャ（伊）・第2回年次会合：平成22年9月於ベルリン（独）、第3回年次会合：平成23年9月於パリ、第4回年次会合：平成24年9月於オックスフォード（予定）
- 現在7カ国16機関が参加登録



# 低炭素アジア研究ネットワーク (LoCARNet) LCS-RNetのアジア版

- 平成23年10月: ASEAN+3環境大臣会合(於プノンペン)にてLCS-RNetのアジア地域版である「アジア低炭素開発研究ネットワーク」(ARNLCD)の設立を提案
- 平成23年11月: 東アジア首脳会議で総理が「東アジア低炭素成長パートナーシップ」においても重要な柱の一つと発言。
- 平成24年4月東アジア低炭素成長パートナーシップ対話にて細野大臣が「低炭素アジア研究ネットワーク」(Low Carbon Asia Research Network : LoCARNet)の立ち上げを報告。
- 平成24年10月に第1回会合を開催予定。

